

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日綜ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームいすの木 1階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和6年1月11日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0193600335-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者や家族一人一人の思いを大切にしたい支援を心掛けています。入居者を介護される人という立場に置かず毎日の生活の中で必要な作業は出来るだけ入居者主体でやっていただいている、それぞれが役割を持つ事で生活に張りが出ています。入居者同士で誘い合っている事も多く、皆と一緒にすることで他入居者とのコミュニケーションがとれ、自室に籠ることは少ない。施設周辺は自然環境に恵まれており、施設から見える高台の公園は春には満開の桜、秋には紅葉と施設に居ながらにして季節を感じる事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームいすの木」は、苫小牧駅から車で10分程の幹線道路に面した場所に立地している。近くには市立病院や住吉公園、ドラッグストアやスーパーマーケットもあり生活環境に恵まれている事業所である。建物内は居間と食堂が独立した明るく開放感のある回廊式の間取りで、廊下や居間の壁にはボランティアの方が描いた絵や季節の装飾がさり気なく飾られており家庭的な温もりが感じられる。中庭の畑では、利用者と一緒に数種類の野菜を育てて収穫や季節の味を楽しんでいる。運営推進会議は、対面での会議を再開して間もないが多くの家族の参加を得ている。家族の意見や要望は個別ノートに記録し、継続的に職員間で情報が共有できるように工夫している。ケアマネジメントの面では、利用者と家族の意向を具体的に聞き取って介護計画に反映させ、各利用者が役割を持ってその人らしく生活できるように支援している。管理者は職員の意見や提案も内容に応じてエリアマネージャーを通して本社にあげ、働きやすい職場環境の整備に努めている。職員間や利用者間のコミュニケーションも良く、みんなが笑顔で生き生きとした日々を送っている。今後は感染症の収束状況を見ながら地域行事への参加や外出支援、子供たちとの交流、ボランティアの受け入れを再開して地域交流を深めたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所には職員皆で考えた理念があり、毎日、仕事に就く前に理念を確認している、又、申し送り時やカンファレンス会議の時に理念に添った支援をしているか話し合っている	理念に「地域のみなさんとの交流」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目がある。事務所に掲示し、名札の裏にも記載している。職員は仕事前に確認し、理念に沿った介護計画の作成に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加、施設行事への町内会の行事への参加のお願い、町内会の廃品回収時にはダンボール等の廃品の提供、公園のゴミ拾い等の町内会活動への協力を入居者と一緒に行っている	町内会のお祭りに招待されたが、天候が悪く参加ができなかった。看護学校の実習生を受け入れている。感染症の収束状況を見ながら小学校や保育園との交流、ボランティアの受け入れを再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達が認知症の人達を理解をしていただける様に施設で勉強会を開催したり、民生委員からの独居老人についての相談等を受けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、入居者家族、市の担当者、地域包括支援センター、町内会、民生委員の人達の出席をいただき意見やアドバイス、様々な情報をサービスに活かしている	5月から対面での会議を開催して現況報告を行い、市役所や地域包括支援センターの担当者などから情報提供を受けている。家族の参加も多いが、以前のようにテーマを設けた会議までは行っていない。	テーマを設定した会議を再開し、参加できない家族の意見も事前に収集して会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の介護福祉課の担当者に出席をいただき地域支援事業等の情報や市の情勢やアドバイスをいただいている	市役所や地域包括支援センターと入退去者に関する情報交換をしている。空き情報を連絡することで、市役所の紹介で入居の見学に来たこともある。日頃から連絡を取り、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が社内外で開催されている研修に参加したり、当事業所でも独自で勉強会を開催し、どのような事が身体拘束にあたるのかをよく理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回勉強会を実施している。毎月不適切ケアに関する自己チェック表を作成し、委員会を開催している。勉強会の開催記録と資料、不適切ケア防止委員会の議事録を見やすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても社内外の研修で何度も取り上げられており、虐待につながる色々な状況を理解し虐待防止に努めている。また、虐待につながる職員の業務上でのストレスについても本社からのアンケート調査や相談窓口がある		

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見人制度を利用している入居者がいたので成年後見人制度については職員全員が理解しているし、日常生活自立支援事業についても市の介護福祉課や市の広報誌等からも情報を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には本人と家族には十分な説明をして納得いただいた上で契約をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の訴えは日々の生活の中で聞いており、家族からの意見や要望は面会時や運営推進会議、家族参加の行事の時等に聞き入れる様にしている	家族の来訪時や電話、介護計画の更新時に意見や要望を聞き取り、個別ノートに記録している。年4回発行している「いすの木通信」に、利用者担当職員からのメッセージを添えることも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は毎日の業務の中や月に1回のカンファレンス会議で意見交換や提案を聞き入れて業務に反映させている	会議や申し送り、日々の業務の中で意見や提案を聞き取り、内容に応じてエリアマネージャーを通して本社にあげている。管理者は、職員の意見や提案を反映させて働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間は会社規定があるが、勤務形態、シフトの変更、希望休み等は出来るだけ聞き入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が出来るだけ研修等に参加する為の勤務の調整をしたり、外部研修の助成もあり、それぞれの職員が自分に必要な研修に参加しスキルアップが出来る様に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、管理者、ケアマネ研修、また、他事業所訪問等で同業者間の交流を通じてサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の面接時に今の生活状況、今困っている事、そしてこれからはどんな生活を望んでいるかをじっくり聴き、身体面、精神面で出来るだけ本人の望む生活を実現出来る様に支援している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の面談時に家族の要望、本人と家族の関係性も含め家族の要望が本人の要望と相反するものでない限り聞き入れ、家族の気持ちも大切に家族の協力を得ながら支援している			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取りから得た情報をもとに生活歴、以前利用していた施設やサービス事業所、かかりつけ医療機関からの情報等から本人が必要としている支援を見極めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフは家族という意識で入居者それぞれに役割を持っていただき出来る事を手伝ってもらいながら入居者と共に生活している			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響でここ3年ほどは施設行事に家族の参加は出来なかったが以前は年に3回は家族参加型の行事を開催していた、その時は準備の段階から、また当日も家族の協力をいただきながら行っていた、今年は家族参加の行事も検討している			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会は時間に関係なくいつでも受け入れており、入居前に行かれていた理髪店、美容室にも本人の希望があればいつでも行かれる様に支援している	近所に住んでいた方や友人が訪ねて来たり、知人から年賀状が届く利用者もいる。家族と一緒に理髪店に行ったり、法事やお墓参りに出かけることもある。自宅に帰ったり家族と外食を楽しむ利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一緒に過ごせる場所が施設内に数か所あり、ほとんどの入居者が日中は談話室や食堂でテレビを観られたり、お話をして過ごされている			

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者家族とのい関わりは多く近くに来たので寄ったとか、相談事がある時の来設や電話にも親身に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向は最優先に考え支援をしている、言葉で意思を伝えられない入居者にはその言動や表情から出来るだけ本人の以降を汲む努力をしている	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。フェイスシートに趣味や嗜好を記入しているが情報や記録にばらつきがあり、充実しているとはいえない。	「課題分析」シートの備考欄などを活用して全員の趣味や嗜好を記録し、変化に応じて追記したり定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでその人の生活してきた環境、馴染みのもの、生活に対するこだわり、希望等を聞き、今までの様な生活をされていたか把握しこれからの生活につなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的な状態は毎日のバイタル測定や食事の摂取量等から把握し、精神面ではその日の言動や様子等から把握する様にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の支援の中で本人の意向や家族の希望等も聞き入れ、申し送りやカンファレンスで職員間の意見交換をし、日々の介護記録から入居者にとってより良い介護計画を作成している	利用者担当職員の評価を基に全職員で話し合い、利用者と家族の意向を具体的に聞き取り3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画に関する変化や課題はタブレット端末の「ケース」項目に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者一人一人の介護記録を記載しており、業務日誌や連絡ノートで職員間で共有し、個々の変化を見逃す事なく介護計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスの他にも買い物や外出等入居者の希望があれば個別に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内だけの生活にならない様に地域の人達と関わりが持てる様にボランティアの訪問を受けたり外出行事などで色々な人達と交流が持てる様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医とは入居者の身体的状態の情報提供などで常に連携を図り入居者が適切な医療を受けられる様に支援している	月1回の往診体制を整えているが、家族と一緒にかかりつけ医を受診している利用者が多い。家族と受診する時は、口頭や書面で健康状態を伝えている。受診状況はタブレット端末で記録している。	

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、連携病院から看護師の訪問があり、入居者の健康チェックやその時の状態に応じた身体的なそうじをしてアドバイスをいただいたり医療につなげる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時それまでの状態や生活状況等を情報提供し退院時にはこれからのケアについて指示を受けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した時や終末期にはどのようなケアを望んでいるか本人、家族と話し合いを持っている、また身体的状況に応じて医療機関や他施設の紹介をしている	利用開始時に重度化した場合の対応に係る指針に沿って事業所の方針を説明し、食事が摂れなくなった時や常時医療行為が必要になった場合は対応が難しい旨を伝えている。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受けており、急変時や事故が起こった時には迅速に対応出来る様にしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、色々な災害を想定して避難訓練を実施しており、家族や地域住民にも災害時の協力をお願いしている、また、訓練の後に消防署員の人からアドバイスをいただいたり避難経路の確認をしている	消防署に協力を依頼し、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。感染症の収束状況に応じて、避難訓練への地域住民の参加と救命講習の受講を予定している。ケア別の個別対応も再確認する意向である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居やにはそれぞれ個室がありプライバシーを守る事は出来るが職員は特に排泄に関する言葉掛け等は注意しカンファレンス時に言葉による虐待等の勉強会をしている	接遇研修で職員は自己チェック表を用いて利用者に対する言葉遣いや対応について振り返り、尊重したケアを行っている。書類は事務所で保管し、記録はタブレット端末で行い適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望に添ったケアを心掛けており職員の意見を押し付ける事無く自己決定できるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のその日の状態やペースに合わせて食事の時間や入浴時間は柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容は出来るだけ本人の決定を大事にしているが自分で決められない時や季節に合わない服装をしている時には声掛けし一緒に着替えをしている		

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本社の管理栄養士が作成したメニューがあるが入居者一人一人の好みやその日の状態に合わせて調理方法や食材を変えている、下ごしらえは出来る入居者に手伝っていただいている	誕生日に生寿司でお祝いし、行事でお弁当を取り寄せることもある。中庭にある畑の収穫物で職員と一緒に利用者はいも団子を作ったり、ホットプレートで焼きそばやケーキ作りを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は一人一人毎日記録しており、必要摂取量が摂れる様にその日の体調や好みに合わせて工夫している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前、必要に応じて食後等にうがいや歯磨き、義歯の洗浄等をしていただいている自力で出来ない入居者には職員が介助で行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを職員全員が把握しており、以前、失禁が多く紙パンツを利用していた入居者に紙パンツをあえて中止し、布パンツに変更したところ、失禁が少なくなった事があり自立に向けての取り組みをしている	タブレット端末で排泄記録を共有し、昼夜ともほとんどの利用者はトイレを使用している。自力でできる方が多く、介助が必要な場合も動作を促し、自立面を支えるケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	確認できる入居者に対しては、排便回数、時間、便形状等は記録しており、入居者の状態に合わせ長期間排便が見られない時は医師より処方された下剤を与薬している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っているが入居者の体調や希望する時間等には柔軟に対応している、また、入浴を拒否する入居者にはどうして拒否されるのか入居者と話し合い原因を突き詰めて入浴に繋げている	日曜を除き週2回の入浴を支援しているが、希望に沿って回数を増やすこともある。拒む時は職員の工夫で入浴につなげている。浴槽に入るのが難しい場合はシャワー浴を行い、ほとんどの方は湯に浸かり職員との会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の決まりはなく入居者本人にまかせているが快適に睡眠出来る様に室温や照明を入居者の希望や体調に合わせている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員が内服されている薬の種類、効能や副作用については職員全員が把握しており、食後、起床時、就寝前等決められた時間に与薬し内服確認を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に役割を持っていただき、朝の掃除、洗濯物の整理、畑作り、布巾や雑巾縫い等得意とする事は出来るだけしていただいております、声掛けしなくても自らやられている			

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があれば買い物に付き添い、天気の良い日には施設近隣の公園に散歩に出かけたり、コロナ以前は商業施設のフードコートや近くのラーメン屋に出かけ、周辺観光地にバスを借り切り家族と一緒に出かけたりしていた、コロナも落ち着いたので今年は計画したい	天候を見て近隣の公園に出かけ、車椅子利用者も散歩している。中庭に出て花壇や野菜作りで外気に触れている。感染症の収束状況をみながら、今後は以前のように季節の外出行事や買い物、外食の機会を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に難しい入居者が殆どだが自分でお金を持たれている入居者もお買い物に行った時には自分で清算出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にはいつでも電話出来る様にしており、手紙もお散歩がてら自ら投函出来る様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養の空間は常に清潔を保ち、照明、室温等も入居者の希望に合わせて調節して居心地の良い空間にしている。また、施設内にお正月、節分、ひな祭り、敬老会やクリスマスの行事や季節の飾り付けを入居者と一緒にする事で季節の移り変わりを感じていただいている	共用空間は回廊型でダイニングから離れた場所にリビングがあり、大小の観葉植物や遊び道具などが置かれている。居間の窓から展望台を眺めて、桜の花など季節の変化を楽しむことができる。居間や廊下の壁には季節行事の装飾やボランティアによる絵が飾られており、温かな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にも一人でくつろげるソファがあったり、食堂、談話室、和室があり、入居者がそれぞれ気のあった物どうしでお話出来る場所になっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなるべく使い慣れた家具や身の回りの物を持って来ていただいたり、家族やペットの写真や自宅まで育てていた植物等で今までの生活に近い環境の中で安心して過ごす事が出来る様に支援している	居室は造り付けのクローゼットに物が整頓され安全に移動ができる。使い慣れた古いタンスや小物入れ、座椅子、家具類などが持ち込まれている。大きな縫いぐるみを傍に置き、家族の写真、カレンダーなどを飾り安心できる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれのお部屋には名札、入居者の写真、家族が作った飾り物をドア横に付けじぶんの部屋とわかる様に、また、トイレも一目でわかる様に工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日綜ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームいすの木 2階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和6年1月12日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いすの木は、入居者様、職員で中庭にある畑を耕し、花を植えたり、野菜を育てています。収穫した野菜を、入居者様と一緒に調理し食し楽しんでます。それぞれ無理なく生きがいのひとつとして行っています。職員は明るく、入居者様との信頼関係も築けています。行事の時以外にも、1階、2階の交流もありレクリエーション活動を楽しんでいます。毎日を大切に、入居者様の意見を尊重し、心穏やかに生活できるように支援していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JivgosvoCd=0193600335-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に貼ってあります		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の出席、廃品回収の協力、お祭りなど地域の行事への参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの看護学校の学生さんを受け入れ、認知症の方が地域の中でどうしたら生きて行けるかを検討している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会、市役所、包括、などの方の参加していただき、幅広い意見を聞きそれを活かせる様にしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席をお願いしますその時に意見などを聞いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束はなく、玄関の施錠も入居者に危険のない時間帯は施錠しない様にしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料を基に虐待のない介護を目指しています		

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては、資料にもとずいて勉強するとともに苫小牧市の後見センターとも情報の交換をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に身元引き受け人や連帯保証人の方に説明し同意をもらっています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の時に聞いたり、あまり来られない家族には、電話で近況をお知らせするとともに意見を聞いて居る		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議、毎日の申し送り時に職員の話聞き、改善できることは改善しています。本社への要望はエリアマネージャーに連絡しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の木手に従って行っています。会社への要望はエリアマネージャーに伝えています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の規定に従って行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修や会社の研修に参加しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談の時に話を聞き援助内容を説明しています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に話を聞き援助内容を説明してその方に添ったケアプランを作成しサービス内容を常に説明しています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの中で一番必要とするサービスから対応しています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に合わせ出来る事を無理なく継続できる用に職員と共に助け合い生活しています			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と今置かれている体調に合わせ今後どうしていくか共に考えて言っています			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になったタイミングで居室で面会できるようにした			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のプライバシーを守りながら孤立しない様に職員が声掛けをし皆さんとコミュニケーションが取れるように支援しています			

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談を受けたときは相談に応じています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で話を聞き、本人の意向がなるべくかなえられる様にしています。また、言葉にならない仕草表情が汲み取るようにしています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様なるべく満足できるようなサービスを支援できるように日々努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活状況を聞いたうえで入居後の生活状況を観察、把握し介護計画に反映出来るようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が安心して生活できるように職員がみんなでアセスメントするように職員がそれぞれの担当を持つようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼののシステムを使用し個々の日々の記録を残すようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人の希望に添えるように支援しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナかで中止していたことを少しずつ再開している 今年は看護学校の学生を沢山受け入れた		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの、かかりつけ医と連携を持ち本人の希望の絵量が受けられる様に支援しています。医療連携してる病院からは健康管理の看護師の訪問、予防接種に来ていただいている		

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医療を受けている方は、事前に情報を送ったりご家族と行かれる方は日々の様子を知らせるようにしている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院するときはグループホームでの情報を書面で知らせたり、退院時は病院から書面、口頭で情報をもらう様にしている、入院時は家族とともに、病状の説明を聞く様にしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面で重度化の指針をいただき、入居後は体調変化に合わせて話し合いを進めている			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2週間に1回来て下さる看護師、担当医に様々な相談をし指導をいただいている。薬に関しては薬剤師に相談している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしている			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し意向に添った声掛けをする			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見をなるべく尊重し意向に添った声掛けをする			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせた支援が出来るように入居者の話に耳を傾けケアプランのサービスに取り組んでいます			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みに合わせている			

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本尾献立は本社管理栄養士が立て居るが職員も工夫しながら提供するとともに簡単な食事の準備、後かたづけを手伝っていただいています			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	この状況にあった食事の提供を心掛けています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア-の声掛け、早めに歯科治療が受けれるように訪問歯科診療などを行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を確認しながら、排泄の介助をします			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認しながら、食物の形態などに気を配り下剤の投与などをする			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調に合わせて2回入浴を基本としていますが、体調がよくない人などに関しては清拭などで対応します			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の目安はあるがその日の状況に応じちニユ民、起床出来るようにしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬に関わっており、病名、くすりの内容は知っていますが、薬の管理に関しては不要長座位薬局の薬剤師が管理、アドバイスをしてくれます			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ここに合わせた家事労働のお手伝い、1.2階の入居者皆さまで行うレクリエーションなどを行っています			

ふれあいの里グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類になり受診時等ご家族と少しずつ出かけるようになった 来年にはもう少し外出の機会も増やして行きたい		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ家族が管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもできるようにしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように装飾を共有空間は常に清潔にしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や食堂で思い思いの過ごし方されています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が思い入れのある物、居室に置きたいものを置く様にしておく		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来ない事を把握し安全な環境を調べています		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームいすの木

作成日：令和 6年 2月 17日

市町村受理日：令和 6年 2月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的に運営推進会議を開催している、以前は会議の時に「認知症について」の勉強会等も行ってた、昨年5月より対面での会議になっているが主に現況報告と市役所、包括支援センター、町内会からのお知らせ等にとどまっている	運営推進会議には都度テーマを設定し、欠席されるご家族からも事前に意見をいただき会議に反映していくようにする	次回の運営推進会議は2月末に予定しているので早速、今回のテーマは「外部評価結果」で設定し開催する、事前に欠席家族から意見をいただき会議に反映させる	2週間
2	23	入居者のフェイスシート、課題分析シートに入居者それぞれの趣味や嗜好等細かな情報の記載にばらつきがありケアプランに活用出来ていない	入居者それぞれの趣味や嗜好等の細かな情報をフェイスシートや課題分析シートの記載欄、記載欄のないものは備考欄を活用し記載し変化に応じて更新しケアプラン作成に活用する	入居者全員のフェイスシート、課題分析シートを見直し情報の足りない所はもう一度本人、ご家族に聞き取りし、個々の情報を充実させケアプラン作成時にその人らしいケアプランになるように活用する	1ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。